

# 多様な「半農半X」の 展開と可能性

～新しい農村政策との関係で～

## 【プログラム】

### 18:30 開会

進行:副会長 小田切 徳美(明治大学農学研究科長)

開会挨拶 副会長 村田 泰夫(ジャーナリスト)

### 18:40 現場からの報告

#### 1. 岡山発・半農半Xのいまとこれから

NPO法人英田上山棚田団 理事 水柿 大地 氏

#### 2. 記者から見たパラレルノーカークの可能性について

日本農業新聞社北海道支所 次長 尾原 浩子 氏

### 19:45 コメント 半農半Xの意義と農政上の位置づけ

法政大学現代福祉学部 教授 関司 直也 氏

### 19:55 ディスカッション

### 20:30 閉会

閉会挨拶 会長 生源寺 眞一(福島大学食農学類長)

## 【解題】

### 1. 「半農半X」の2面性

- ① ライフスタイルとしての「半農半X」
- ② 農(林)業担い手としての「半農半X」

### 2. 新しい農村政策における位置づけ

- ・ 上記2面性を位置づけている
- ・ 産業政策と地域政策の「車軸」としての位置づけも  
(農村政策の「補助輪」から「両輪化」する役割)

### 3. 論点

- ① 多様な「半農半X」の共通する性格(特に「農」) **論点①**
- ② 持続可能性確保のための政策 **論点②**

## 新たな基本計画における農村の振興に関する施策の概要

農村、特に中山間地域においては、少子高齢化・人口減少が都市に先駆けて進行する一方で、「田園回帰」による人の流れが全国的な広がりを持ちながら継続しているなど、農村の持つ価値や魅力が国内外で再評価され、多様なライフスタイルの普及や、関係人口の拡大等により地域活性化に貢献する動きがみられる。このような最近の変化にも的確に対応しつつ、**関係府省、都道府県・市町村、事業者が連携・協働し、「地域政策の総合化」を図る。**

### しごと

#### (1) 地域資源を活用した所得と雇用機会の確保

- ① 中山間地域等の特性を活かした複合経営等の多様な農業経営の推進
- ② 地域資源の発掘・磨き上げと他分野との組合せ等を通じた所得と雇用機会の増大
  - ・農村発イノベーション※をはじめとした地域資源の高付加価値化
  - ・農泊、ジビエ、農福連携 等
- ③ 地域経済循環の拡大
  - ・バイオマス・再生可能エネルギー、農畜産物等の地域内活用・消費
  - ・農村におけるSDGs達成に向けた取組
- ④ 多様な機能を有する都市農業の推進

食料・農業政策

### くらし

#### (2) 中山間地域等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備

- ① 地域コミュニティ機能の維持や強化
  - ・世代を超えた人々による地域のビジョンづくり
  - ・放牧等の多様な土地利用方策とそれを実施する仕組みの構築
  - ・「小さな拠点」の形成
  - ・地域コミュニティ機能の形成のための場づくり
- ② 多面的機能の発揮の促進
- ③ 生活インフラ等の確保
  - ・情報通信環境の確保
  - ・地域内交通の確保・維持 等
- ④ 鳥獣被害対策等の推進

※農村発イノベーション

活用可能な農村の地域資源を発掘し、磨き上げた上で、これまでにない他分野と組み合わせる取組

### 活力

#### (3) 農村を支える新たな動きや活力の創出

- ① 地域を支える体制及び人材づくり
  - ・地域運営組織の形成
  - ・地域内の人材の育成及び確保
  - ・関係人口の創出・拡大や関係の深化を通じた人材の裾野の拡大 等
- ② 農村の魅力の発信
  - ・半農半X、デュアルライフ(二地域居住)などの多様なライフスタイルの提示
  - ・農的暮らしなどの多様な農への関わりへの支援体制の構築
  - ・棚田地域の振興と魅力の発信 等
- ③ 多面的機能に関する国民の理解の促進等

食料・農業政策

### 仕組み

#### (4) 「3つの柱」を継続的に進めるための関係府省で連携した仕組みづくり

- 農村の実態や要望について、農林水産省が中心となって、都道府県・市町村、関係府省、民間とともに、現場に出向いて直接把握し、把握した内容を調査・分析した上で、課題の解決を図る取組を継続的に実施するための仕組みの構築

38

農水省資料より引用